

学校法人 北海道科学大学

2021年度 事業計画書

2021年4月1日～2022年3月31日



事業方針

学校法人北海道科学大学は、創立100周年を迎える2024年に向けたブランドビジョン『基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域と共に発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。』を定め、ビジョン達成のため、2020年度から5か年に亘る「第2期中期事業計画」を定めるとともに、各項目における目標達成に向けた今年度の取組を事業計画として取りまとめました。

本法人は今後、18歳人口の減少に伴い、大学間の競争が激しくなることが予想され、Society5.0、人生100年時代に対応した人材養成が求められている中で、より良き社会の創造と持続的発展に貢献することが必須と考え、そのためには、創立から現在に至るまでの歴史と伝統に裏付けられた実績を基に、全ての教職員が共有する本法人としての進むべき理念を改めて明確に示すべく、以下の経営理念を明示しています。

新しい価値を創造する実学系教育を通じ地域社会からの期待に応え、
一人ひとりが輝く、北海道の発展に寄与する人材を育成する。

さらに、社会環境の変化を踏まえた新たな将来像・運営方針として、下記の「HUSグランドデザイン2040」を策定しました。



昨年、本法人は創立100周年へ向けた中期事業計画を加速する中、コロナ禍により通常の教育活動ができない創立以来の経験を余儀なくされ、社会の仕組みも大きく変化し、現状の延長線上では未来がないことを強く認識させられました。

そのような状況でも、改革を止めることなく、教育の質を担保し、安定した運営を行うため、スクラップ・アンド・ビルドによる新規事業予算の確保、費用対効果の検証による効率的な予算計上を行い、学生・生徒及び地域に選ばれ、地域社会と共に発展・成長していく高等教育機関を目指します。

2021年度の教学体制については、地域社会への早急な医療人の人的貢献を果たすため、保健医療学部の入学定員を変更し、北海道の医療・介護分野を支える人材の育成とSociety5.0に対応した人材の育成を目指した全学的なデータサイエンス教育の展開をします。

また、2023年の北海道科学大学高等学校の前田キャンパス移転に向け、高大一体教育の実現へ努めます。

この他、前田キャンパスの教育・研究施設の高度化を引き続き推し進めるため、D棟(工学部西棟)の稼働、A棟教室の改修工事、HITプラザの改修、薬草園の移設等を計画しています。

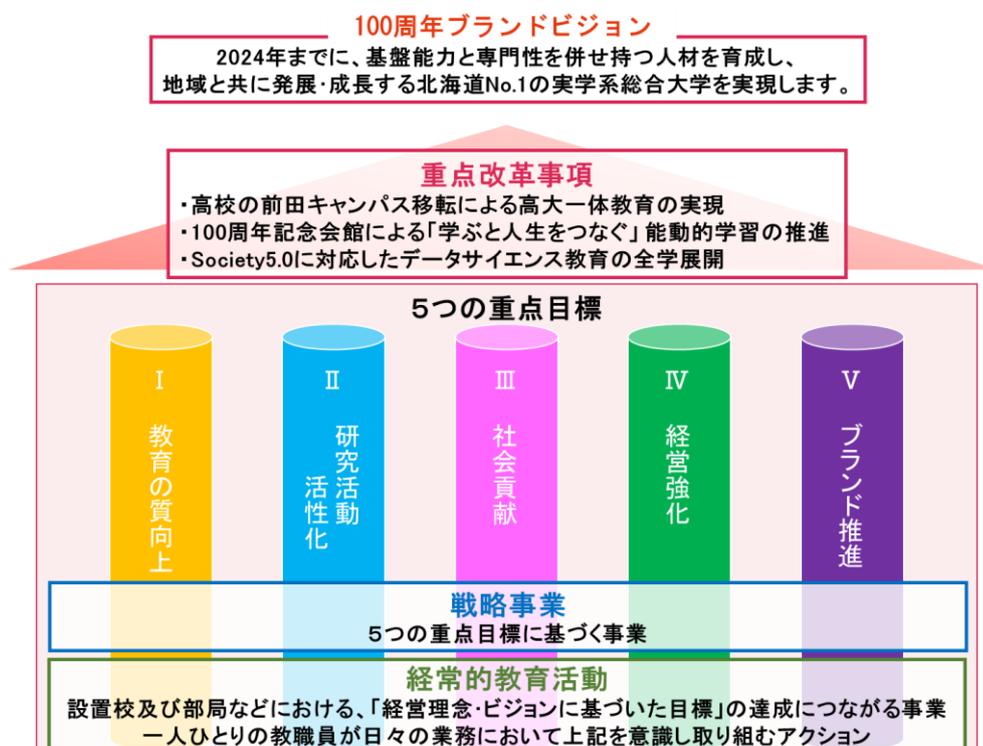
目次

1.中期事業計画及び事業計画	3
(1)第2期中期事業計画について	3
(2)第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標	3
(3)2021年度に取り組む主な事業(戦略事業及び経常的取組)	4
【Ⅰ.教育の質向上】	4
【Ⅱ.研究活動活性化】	9
【Ⅲ.社会貢献】	10
【Ⅳ.経営強化】	11
【Ⅴ.ブランド推進】	14
2.施設整備計画	16
3.設備整備計画	17
4.学生生徒見込数	18
5.役員・評議員・教職員等の概要	21

1. 中期事業計画及び事業計画

(1) 第2期中期事業計画について

法人創立100周年である2024年度に向けたブランドビジョンを実現するため、2020年度から5か年にわたる第2期中期事業計画を策定した。



第2期中期事業計画概要図

100周年に向けた重点改革事項として、以下の事業を実施する。

- ・高校の前田キャンパス移転による高大一体教育の実現
- ・100周年記念会館による「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習の推進
- ・Society5.0に対応したデータサイエンス教育の全学展開

上記に加え、法人及び各設置校が丸丸となって取り組む教育の質向上をはじめとする5つの重点項目及び目標を定めている。

(2) 第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標

【I. 教育の質向上】

建学の精神に謳われる「科学的市民の育成」により、複雑多様化、グローバル化が進展し、予測不可能な時代にあっても主体的に社会を支える人材を輩出する。

このため、「プロフェッショナル教育」の理念に基づいて、学修者本位の教育への転換を推進する。

高等学校にあっては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の実現により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とする。

【Ⅱ. 研究活動活性化】

本学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図る。

【Ⅲ. 社会貢献】

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指す。

【Ⅳ. 経営強化】

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化等)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資する。

【Ⅴ. ブランド推進】

信条として掲げた「+Professional」「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動並びに地域貢献活動等の個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図る。

- ・地域活性化に向けた取組
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組

(3)2021年度に取り組む主な事業(戦略事業及び経常的取組)

【Ⅰ. 教育の質向上】

重点目標

基本理念「科学的市民の育成」、「プロフェッショナル教育の推進」を引き続き堅持し、学修者本位の教育への転換をより一層推進する。

高等学校にあっては、新学習指導要領に準拠した教育の展開により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とする。



遠隔授業の様子

<戦略事業>

① データサイエンス教育対応教育資材の導入（北海道科学大学）

Society5.0に対応し、地域社会の中心で活躍する人材育成のため、充実した「数理・データサイエンス・AI」教育を受けることができる環境を提供し、全ての学生が「数理・データサイエンス・AI」の素養を身につける。

② 社会の要請に対応した情報人材を育成するための実験環境整備並びに教材開発

（北海道科学大学）

「最新の知識・技術を身につける科目群」における実験環境整備並びに教材開発を目的に、最新技術に触れ、社会で現実的に解決すべき問題を題材とした、PBL形式（課題解決型学習）で学ぶことのできる授業を実施する。

③ IoT・AI・データサイエンス環境を構築する講義の整備と実施（北海道科学大学）

第4次産業革命、Society5.0の中心技術である人工知能やセンサーからのデータ取得、時系列解析技術について実践を通して総合的に学ぶ講義（実験）環境の整備を行い、これらの技術を習得し社会に貢献できる学生を育成する。

④ 電気自動車に関わる電気電子技術教育の推進（北海道科学大学）

環境問題対策として、電気電子系技術者のニーズが高まる自動車業界に対応するため、電気自動車に関わる電気電子技術の教育環境を早期に整備し、自動車業界で活躍する人材を育成する。

⑤ カリキュラムの点検・改善検討（北海道科学大学）

建築分野における北海道No.1の実学教育を実践することを目的とし、2018年度入学生のカリキュラムを詳細に検証し、その改善対策を講じた次期カリキュラムを立案する。なお、本事業の遂行にあたっては基本教育科目の検証と改善を行う。

⑥ CIM時代に対応した建設技術者育成プログラムの構築（北海道科学大学）

建築産業のデジタル化が進む中、CIM（Construction Information Modeling）に関する特別プログラムを測量学、CAD演習及び地理情報システムなどの単位を取得した学生を中心に展開する。さらに、次期カリキュラム改定時に正課の授業科目として取り入れることを目標に、講義・演習方法の検討を行う。

⑦ 学習環境整備のための教室改装（北海道科学大学）

薬学部の収容定員数に対応する大教室の不足とコロナ禍における対面授業の拡充を目的とした、教室改装を行う。

⑧ 北海道における看護を担う人材育成を目指したシミュレーション教育環境の構築

（北海道科学大学）

看護基礎教育にて、様々な臨床の状況を想起できる教材を用いたリアリティのあるシミュレーション教育環境（遠隔医療含む）を構築し、教育を展開する。

⑨ 時代に即した臨床工学技士の養成（北海道科学大学）

臨床実習前後や将来のトレーニングとしてシミュレータを導入し常設することにより、心臓血管カテーターの重点的な教育強化を行い、時代に即した臨床工学技士を養成する。

⑩ 診療放射線技師教育の強化・充実のための環境整備（北海道科学大学）

診療放射線技師の業務拡大及び医療へのニーズの多様化へ適用するため、2022年度から適用が予定されている新カリキュラムにおける実践的な臨床画像を学ぶ科目の追加や、臨床実習先病院の教員資格または、臨床実習指導者講習会修了者である診療放射線技師を確保することが望まれるなどの変化に対応するため教育内容の見直しや臨床実習の充実等の取組を行う。

⑪ PBLセンターの設置と環境整備（北海道科学大学）

本学ならではのPBL(課題解決型学習)の実施体制を整備するとともに、自由にグループ学習を行うことができるアクティブラーニング実施可能な教室の増(各学科1教室程度)など環境整備を行う。

⑫ 入学前から初年次教育を経て、卒業までの一貫した基礎学力強化プログラムの策定

(北海道科学大学)

新入生の基礎学力の定着と強化を入学前教育(推薦・AO系入学者のみ対象)、入学時学力調査、初年次の補修教育等の3つの体制で支援をしているが、担当部署、担当教員等が異なり、効果的なリメディアル教育が実施できていない課題の中、入試形態に関わらず、全入学生を対象とした初年次の基礎学力強化プログラムと、就職試験までを考慮した継続的な学修支援体制を構築する。

⑬ 医療系競合対策の強化（北海道科学大学）

4学部を持つ総合大学である本学の魅力を訴求し続けるとともに、医療系大学における競合対策として医療系を志望している生徒へ向けた広報施策(薬学部、保健医療学部の共同)を行う。

⑭ 授業内外での学習支援、修学支援の充実(北海道科学大学)

学力差拡大に対応し「学生を主体とした教育」の充実のため、正課における授業指導支援の強化と、正課外における学習支援の強化を行う。

⑮ 教育系基幹システムの更新（北海道科学大学）

教育系基幹システムの導入により、学生の入試、学生支援、就職の情報を一元管理するとともに、出欠状況及び成績表を保護者が確認可能となり、大学と双方から学生を見守る環境を構築することで「教育・学修の質」「学生サービス」の向上へ繋げる。

⑯ アセスメント・ポリシーの実質化（北海道科学大学）

2018年度に策定した学修成果の評価に関する方針であるアセスメント・ポリシーの実質化に向けて、学科(教育課程)、授業科目、学生それぞれの対象レベルに応じた評価手段を確立し、学科における自律的な点検改善サイクルが回る環境を構築する。

⑰ 新入生の図書館利用による能動的学習の促進（北海道科学大学）

図書館を活用し、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけ、能動的に学修する力の養成を目的に、各学科で図書館の施設・資料を用いて回答を導き出す課題を与え、学修する取組を行う。

⑱ 多様なグローバル体験と世界に向き合う人材の育成（北海道科学大学高等学校）

短期留学制度の対象地域及び期間の拡大と、外国語指導助手(ALT)の増加による基礎語学力の向上を目指す。

併せて、留学体験の成果を他生徒へ還元するためのスペースを設置する。

⑲ 教科指導力向上に向けた研修体制の整備（北海道科学大学高等学校）

教科指導力向上を目的に、教員の相互交流(連携協定大学や受け入れ可能な高校)、希望者対象の大学院(国内・国外)への進学応援制度、先進校への長期視察(1週間程度)機会の構築を行う。

⑳ 探究学習の充実（北海道科学大学高等学校）

探究学習充実のため、以下の取組を行う。

- ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校へ向け、北海道科学大学と連携したカリキュラムの充実化、科学部(課外活動団体)への支援
- ・海外も含めた主体的な学習機会の中修学旅行先の見直し
- ・総合的な探究の時間(教科横断的な取組)構築に伴う、外部との連携・視察

㉑ 教習指導心得プロジェクト（北海道自動車学校）

教習生が運転技術を修得しやすい教習指導方法や内容を検討し、自動車学校として指導方針等を前面に打ち出すことにより、指導員等職員全体の業務に対する意識の向上と方向性を定め、教習指導及び教育内容の強化を行う。

㉒ グループ担当制の導入(研修所、他校訪問の実施含む)（北海道自動車学校）

教習生に対する教習の質の向上を目的に、グループ担当制の導入に向けた検討会及び実施事例調査を行う。

グループ担当制の教習生アンケート、入校者数の増減等による評価を行う。

㉓ 学科教習改善（北海道自動車学校）

若年層に向けた学科教習の改善及び他校との差別化を目指し、体験型学科教習教材「DONDONドライブ」を導入し、道路交通法等の理解力向上を図る。

<経常的教育活動>

① ティーチング・ポートフォリオ活用の推進（北海道科学大学）

ティーチング・ポートフォリオ(TP)の簡易版といえるティーチング・ステートメント(TS)を全教員が作成する状態を目指し、TS作成ワークショップを企画・実施する。2021年度前期中には新任教員を対象としたTS作成ワークショップを企画・実施し、年度中に全教員のTSを学内公開する。

また作成したTSIについては全学FD・SD講演会を実施し、教育改善に活用するとともに、今後はTP作成に向け準備を行う。

② 遠隔・対面ハイブリッド型授業実施のための教室設備導入（北海道科学大学）

2021年度の対面授業と遠隔授業を併用する方針に基づき、ハイブリッド型授業実施環境の整備を行う。

具体的には、感染防止対策のため使用頻度が減る小規模教室の一部に、複数の教室間をつなぐ分散型授業、教室で実施する授業に対面・遠隔の両方で参加するハイフレックス型授業が実施可能な設備を導入する。

③ 学科の実情に合わせたキャリア教育の実現（北海道科学大学）

各学部、学科による就職の時期、指導内容、業界ごとの状況に対応すべく、各学科の様々な実情に合わせた就職支援プログラムの実施や多様化した学生のサポート体制を拡充し、個々の学生にあったキャリア教育を確立する。

④ 北海道科学大学高等学校との高大連携強化（北海道科学大学）

北海道科学大学高等学校の前田キャンパスへの移転を見据え、高校・大学との連携強化を行う。

具体的には、高大連携探究型授業の推進、系列校入試の見直し、高校と連携した入学前教育の推進、系列校生徒への大学情報提供の場の改善などといったテーマについて、高大接続強化プロジェクトなど恒常的な打ち合わせの場を設け、討議を行う。

⑤ 高等学校への新たな訪問戦略・募集対策の立案（北海道科学大学）

18歳人口の減少により、今後も厳しくなる学生募集への対応として、高校訪問の見直しとコロナ禍における訪問戦略を立案する。

同時に高校教員向けの情報発信メディアを制作（紙、WEB等は検討）し、コミュニケーションツールとして活用する。

また、定員管理・募集対策として、指定校枠の見直し等も行う。

⑥ マーケティングシステムの見直し（北海道科学大学）

資料請求、イベント参加履歴を管理するシステム及びLINEフォロワーの管理ツールを見直し、各種媒体利用履歴の分析、情報発信を担うマーケティングプラットフォームを再構築することで志願者とのコミュニケーションの質の向上を図る。

⑦ 学生募集イベントの整理・統合（北海道科学大学）

コロナ禍における学生募集イベントを再検討し、既存のイベントをオープンキャンパス（従来型）、ミニオープンキャンパス（定員設定、短時間型）、NETオープンキャンパス（オンライン型）に整理し、安全に配慮をしつつ、本学の魅力が高校生に伝わる募集イベント設計へ整理・統合を行う。

⑧ 教習用車両の購入（北海道自動車学校）

運転免許改正（二輪車）に伴い、対応する自動二輪車を購入する。

【Ⅱ. 研究活動活性化】

重点目標

本学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図る。



イノベーション・ジャパン2019参加時の様子
※2020年度はオンライン開催



北海道立総合研究機構との共同イベントの様子

<戦略事業>

① 新研究所(CRILS)の立ち上げと研究成果の永続的な創出・発信（北海道科学大学）

本学5番目の研究所として2020年度に新設された北の大地ライフサイエンス創生研究所(CRILS)において、地域並びに国民の健康・福祉の増進に寄与することを目的に、研究成果を確実に創出・発信し続ける。

② 道内私大トップを目指す科研費獲得ロード（北海道科学大学）

「北海道No.1の実学系総合大学」を達成するためには、研究力の維持・向上が必要不可欠と考え、外部資金の需要と重要性が高まる昨今の情勢に鑑み、その指標となる「科研費」の採択実績の向上を目指す。

③ 補助金連動型アライアンス強化（北海道科学大学）

本学と連携協定を締結する機関との連協強化に向けた共同研究用学内ファンドの構築と運用を実施する。

また、経常費補助金特別補助や私立大学等改革総合支援事業と連動させることにより、執行経費の一部(最大2分の1補助)を補助金収入として獲得する。

<経常的教育活動>

① 産学連携強化に向けた技術移転イベントの促進（北海道科学大学）

オープン・イノベーションの促進及び教育研究の質的向上、産学官連携強化を行うことを目的とし、日本最大級のマッチングイベント「イノベーション・ジャパン」の出展数増加とバイオビジネスにおけるアジア最大級のパートナーリングイベント「Bio Japan」への出展継続を目指す。

② 学際領域研究の活性化（北海道科学大学）

個人・グループ研究活動の活性化、研究ブランドビジョン(北国生活環境科学拠点)の継続及び産学官連携の強化・発展を目的に、期間総額1,000万円の学内公募型の研究費助成を行い、「個人・グループ研究促進型」及び「産学官連携研究促進型」の2つの応募形態で先端研究・大規模研究プロジェクトを支援する。

また、学内へ研究内容を発信するイベントを開催することにより、学際領域研究の活性化を図る。

【Ⅲ. 社会貢献】

重点目標

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指す。



2020年度の公開講座の様子

<戦略事業>

① 看護実践・教育・研究に関するユニフィケーション事業（北海道科学大学）

看護学科と複数の医療・福祉施設が看護実践・教育・研究において連携・協働し、看護ケア及び看護教育の質の向上を図ることを目的に、教育・研修会の実施や臨床看護師の研究支援等を行う。

② 地域医療への貢献を目指した道内地方都市における実務実習の推進（北海道科学大学）

地域医療を支えることを目的に、北海道内の地方都市においてモデルケースとなるような地域医療実習のプログラムを施設と共同で作成し、学生の地域医療に関する理解を深め、地域医療に従事する薬剤師を増やすとともに、就職先が薬局に偏在している現状を改善する。

③ 「自由研究といえば北科大」を目指す～科学やものづくりの楽しさを伝え、未来の科学者を育てるイベント特化事業～（北海道科学大学）

研究・科学のおもしろさを伝えるため、これまで継続的に実施してきた日本学術振興会『ひらめき☆ときめきサイエンス』事業に加え、小学生を対象とした未来の科学者を育てるイベントを実施する。

<経常的教育活動>

① 私立大学研究ブランディング事業の活動報告（北海道科学大学）

2017年度に道内初で唯一採択された「私立大学研究ブランディング事業」の活動内容、研究成果を学外に発信するために研究推進委員会、研究推進・地域連携センターとの連携し、新聞記事広告、道新ホールでのフォーラムを実施する。

② 地域企業との連携強化の実現（北海道科学大学）

コロナ禍において2010年度以上に厳しい就職状況となることが予想される中、景気に左右されることのない企業との関係を構築するため、現在連携している札幌・石狩以外の道内地方都市との業界団体とも連携を行う。

③ コロナ禍におけるの大学見学・出前授業の実施（北海道科学大学）

コロナ禍において感染拡大を防止しつつ、インターネット、動画、SNS等を用いた新たな大学見学・出前授業を検討・実施する。

④ 公開講座の充実（北海道科学大学）

コロナ禍でも地域貢献活動を止めることなく「知の還元」を目的として、新型コロナウイルスに関わるこれからの生活・活動等をテーマとした本学ならではの公開講座を開催する。

⑤ 薬剤師生涯教育の遠隔受講推進（北海道科学大学）

薬剤師生涯学習を通して本学の地域貢献活動を広め、道内、道外の受講者数の増員を目指すとともに、地域医療に貢献できる薬剤師を育成するため、生涯教育の講義等をオンラインにて開催する。

【IV. 経営強化】

重点目標

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化等)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資する。



北海道科学大学高等学校の前田キャンパス新校舎イメージ

<戦略事業>

① 前田キャンパスネットワークの環境維持（北海道科学大学）

2001年度より立ち上げた「モバイルキャンパス構想」による、講義・実習・演習を含めた、あらゆる教育・研究活動及び事務処理を円滑に進めるために安定したネットワーク環境を提供する。

② 教職員の健康維持・増進プロジェクト（学校法人 北海道科学大学）

教職員の定期健康診断の受診率の向上や個々の抱える健康課題に対応する制度の確立のため、保健管理センターを中心に教職員の健康状態の把握(集団・個別診断)及び受診率の推移を踏まえた健康増進プログラムの検討を行う。

③ 前田キャンパス新校舎建築（北海道科学大学高等学校）

北海道科学大学、短期大学部の教育資源を活用した高大接続教育等を展開した新たな高校作りを目指し、前田キャンパスに北海道科学大学高等学校新校舎を建築する。

④ 校舎移転広報計画（北海道科学大学高等学校）

2023年4月の移転に向け、中学生・保護者・中学教員を中心に、プレスリリース等を含め、新聞広告・フライヤー・パンフレット等を制作し、2025年度まで一貫した移転広報活動を行う。

⑤ 系列大学の魅力発信（北海道科学大学高等学校）

北海道科学大学高等学校の魅力が社会に浸透することを目的に、系列校である北海道科学大学と連携した広報を高大連携やイベント等を通じ行う。

⑥ 新学習指導要領に基づく教育課程の編成（北海道科学大学高等学校）

新学習指導要領の施行に伴い、以下の項目の検討を行う。

- ・2学期制を活用した半期履修と認定制度の導入
- ・「特別進学コース」と「進学コース」の特徴を明確にした教育課程の編成と授業レベルの設定
- ・「自学・自習能力」を強化するための取組み
- ・大学の教育資源を活用した情報教育の推進
- ・大学・高校間の単位認定(互換)制度の確立

⑦ ICT環境整備（北海道科学大学高等学校）

学習環境の充実を目的に、プロジェクト及びLANの設置等のICT環境を計画的に整備する。

⑧ 送迎バス位置情報システム導入（北海道自動車学校）

スマートフォン等で送迎バス運行状況を確認することできる送迎バス位置情報システム導入し、運転手及び職員の連絡等にかかる業務の軽減、教習生へのサービス向上を図る。

⑨ 安定かつ多様な収入確保100%出資会社の設立と運用（学校法人 北海道科学大学）

少子化等の影響による就学人口の減少及び入学定員の厳格化など、近年の私立学校を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、多様な収入源の確保が求められている中、100%出資会社を設立し、事業活動を通してその収益を学校法人に寄付することによる「新たな収入源の確保」と、学校法人の人件費等の削減を支援することによる「財政基盤の確立」を図る。

<経常的教育活動>

① 人事・給与制度改革の推進（学校法人 北海道科学大学）

政府が進める「働き方改革」、「仕事と子育ての両立」、「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」に対応すべく、長時間労働の削減、多様な働き方の創設、有期雇用者の不合理な待遇差の解消に向けて制度の見直しを図るとともに、年々増加する人件費の抑制策を検討し財務基盤の確立を図る。

② 寄付金募集事業の拡大（学校法人 北海道科学大学）

本法人の財務基盤の構築を図るため、寄付金受入れの拡充を継続して行う。2021年度は+Professional奨学基金の充実を事業の中心に据え、パンフレットの刷新や寄付者との関係強化などを通して、積極的な寄付金募集広報を行い、事業の原資となる基金を安定的に維持しながら、基盤能力と専門性を併せ持つ人材の育成を目的とした、寄付金制度の充実を図る。

③ 資産運用の意思決定と執行管理の推進（学校法人 北海道科学大学）

適正かつ効率的な資金運用を図るための体制整備の一環として、資金運用委員会が設置されたことから、資金運用方針や意思決定、執行管理の手続等の明確化を推進する。

④ 財務指標に基づく予算管理（学校法人 北海道科学大学）

強固で安定的な財務基盤を確立するために、法人全体の中長期的な財務計画を策定するとともに、目標となる財務指標に基づき、戦略的かつ効率的な予算管理体制の強化を図る。

【V. ブランド推進】

重点目標

信条として掲げた「+Professional」、「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動並びに地域貢献活動等の個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図る。

- ・地域活性化に向けた取組
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組



札幌駅地下歩行空間広告

<戦略事業>

① ホームページ全面リニューアルによる大学知名度及び利便性の向上（北海道科学大学）

入試広報センターを中心に、最新のフレームを使用したビジュアル性、操作性が高いホームページを制作する。

また、導入後も各ページを検証できる仕掛け、ランニングコストの軽減、運用負担の軽減、時代背景に柔軟に対応できるようなシステムとする。

② OB・OG図鑑作成プロジェクト（北海道科学大学）

同窓生、企業との連携強化を図ることを目的に、同窓生間においても連携を深めるために利用可能な、OB・OG図鑑(卒業年、学科、所属、後輩へのコメントなど)の冊子媒体を作成する。

③ インフラ映えフォトコンテスト開催による認知度向上(北海道科学大学)

自然風景のみならず市民活動、経済活動などあらゆる風景に映える社会基盤施設・設備を発見することで、土木分野への関心が醸成されることと学科広報や学生募集目的に、インフラ映えフォトコンテストを実施する。

④ 同窓生との連携強化（北海道科学大学）

同窓会総会行事における若年層会員の参加者数減少の改善及び、同窓生の本学へのニーズを把握し、学内に周知することを目的に、同窓生対象のアンケート実施し、課題の調査及び分析を行う。

＜経常的教育活動＞

① 法人創設100周年に向けたブランド力の浸透（学校法人 北海道科学大学）

100周年ブランドビジョンである「北海道No.1の実学系総合大学」の実現に向け、法人創設100周年事業実行委員会及びブランド委員会、法人広報委員会と連携し100周年記念事業の推進を行い、学内外にアピールする。

また、全教職員にブランドアクションカードの活用を意識させ、本法人の活動を在学生・在校生・同窓生に周知しブランドを浸透させる。

+PIT(組織横断型活動推進プロジェクト)については各プロジェクトを支援し、各種メディアへの掲載を増やす。

② ホームカミングデーの充実 2021年度【恩師との再会(仮称)】（学校法人 北海道科学大学）

ホームカミングデー(同窓生交流会)の対象を法人全体の同窓生とすることで会の充実化を図る。

2021年のテーマを「恩師との再会(仮称)」とし、2009年に閉校した北海道総合電子専門学校同窓生、退職教職員に出席要請を行い出席予定退職教員名簿の事前告知により卒業生と恩師との再会の場とする。

③ 札幌駅地下歩行空間広告掲出（北海道科学大学）

2012年度から実施している「札幌駅地下歩行空間広告掲出」を継続して実施し、本学の北海道に対する思いを伝えることを目的としてメッセージを掲出する。

④ 広報誌Newsletterの発行（北海道科学大学）

ステークホルダーに対する本学の最新情報を伝える手段として、ホームページやSNSなどWEB媒体とともに今年度も引き続き広報誌「Newsletter」を発行し、地域に対する取り組み、+PIT、学生、卒業生、研究についての最新情報を掲載し、各所へ郵送及び配置等を行う。

⑤ 各種広告媒体のデザイン統一化-キービジュアルの開発・展開-（北海道科学大学）

2024年まで活用する学生募集向けのキービジュアルを開発し、各種メディアへ展開する。

これまで高校生に訴求してきた内容を整理し、訴求内容の見直しを行う。

2.施設整備計画

主な工事計画は、以下のとおりです。

工 事 名	
＜北海道科学大学＞	
・HITプラザ改修工事	一式
・A棟教室改修工事	一式
※以下、キャンパス再整備計画に基づく整備	
・薬草園移設工事	一式
・D棟外構工事	一式
＜北海道科学大学高等学校＞	
・高校校舎新築工事	一式
・無線LAN追加工事	一式
＜北海道自動車学校＞	
・場内教習コース照明更新工事	一式

3.設備整備計画

(1)教育研究用機器備品

各設置校における教育研究充実のため、機器の更新及び機械器具を購入します。

購入数量	431点
------	------

主な購入品目は、以下のとおりです。

件 名	
<北海道科学大学> ・証明書発行機 ・リアルタイムPCR	4点 1点
<北海道科学大学高等学校> ・プロジェクタ ・給電スイッチ	14点 1点

(2)管理用機器備品

各設置校の機器の更新及び管理用備品を購入します。

購入数量	6点
------	----

(3)図書等

各設置校の図書等を以下のとおり購入します。

設 置 校 名	図書	(冊)			
		学術 雑誌	電子ジ ャーナ ル	デー タ ベ ース	視 聴 覚 関 係
北海道科学大学	338				
北海道科学大学短期大学部	46				
北海道科学大学高等学校	270				

(4)車両

各設置校の車両を以下のとおり購入します。

<北海道自動車学校>

・教習用自動二輪 2台

4. 学生生徒見込数

※2021年度予算編成人数

<北海道科学大学>

(学部)

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
工学部	機械工学科	92	368	92	104	75	78			349
	情報工学科	90	360	90	98	102	102			392
	電気電子工学科	80	320	80	127	80	62			349
	建築学科	80	320	80	81	109	89			359
	都市環境学科	50	200	50	68	55	38			211
薬学部	薬学科	180	1,140	180	211	191	200	184	168	1,134
保健医療学部	看護学科	90	330	90	88	94	91			363
	理学療法学科	50	170	50	48	50	43			191
	義肢装具学科	30	180	30	33	29	13			105
	臨床工学科	70	280	70	82	78	74			304
	診療放射線学科	50	200	50	73	66	50			239
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	80	320	80	96	102	75			353
	人間社会学科	50	200	50	56	60	46			212
計		992	4,388	992	1,165	1,091	961	184	168	4,561

(大学院)

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	学生数					
				1年	2年	3年	4年	計	
工学研究科	修士課程	機械工学専攻	5	10	5	3			8
		電気電子工学専攻	4	8	4	3			7
		情報工学専攻	4	8	4	5			9
		建築学専攻	4	8	4	1			5
		都市環境学専攻	4	8	4	0			4
	計	21	42	21	12			33	
	博士後期課程	工学専攻	6	18	6	2	3		11
		計	6	18	6	2	3		11
薬学研究科	博士課程	臨床薬学専攻	3	12	3	1	0	0	4
		計	3	12	3	1	0	0	4
保健医療学研究科	修士課程	看護学専攻	5	10	5	4			9
		リハビリテーション科学専攻	4	8	4	2			6
		医療技術学専攻	4	8	4	4			8
		計	13	26	13	10			23
	博士後期課程	保健医療学専攻	3	6	3	4			7
		計	3	6	3	4	0		7
計		46	104	46	29	3	0	78	

(専攻科)

専攻科名	入学定員	収容定員	学生数	
			1年	計
公衆衛生看護学専攻科	8	8	8	8
計	8	8	8	8

<北海道科学大学短期大学部>

学科名	入学定員	収容定員	学生数		
			1年	2年	計
自動車工学科	0	100	0	49	49

※2020年度より募集停止

<北海道科学大学高等学校>

学科名	入学定員	収容定員	生徒数			
			1年	2年	3年	計
普通科	300	900	300	332	275	907
工学科 ※	0	80	0	0	48	48
計	300	980	300	332	323	955

※2019年度より募集停止

<北海道自動車学校>

科名	種別	教習時間	教習生数
本科 (公安委員会指定)	普通一種	34	1,300
	準中型	41	25
	大型特殊	12	32
	大型二輪	36	50
	普通二輪 (400cc以下)	19	80
	普通二輪限定 (125cc以下)	12	20
計			1,507

5.役員・評議員・教職員等の概要

(1) 役員・評議員 (2021年3月1日現在)

理事・監事・評議員の別	常勤・非常勤の別	人数	計
理 事 (兼評議員)	常 勤	8	14
	非 常 勤	6	
監 事	常 勤	1	3
	非 常 勤	2	
評 議 員	常 勤	16	25
	非 常 勤	9	
計			42

(2) 教職員 ※2021年度予算編成人数(事務職員は部門別配分前)

職 種		所 属	人数
教育系職員	教 員	北海道科学大学	246
		北海道科学大学短期大学部	11
		北海道科学大学高等学校	57
		北海道自動車学校	5
	技術員	北海道科学大学高等学校	0
		計	319
事務職員(契約職員を含む)		北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部 (理事長・学長政策室、内部監査室を含む)	133
		北海道科学大学高等学校	14
		北海道自動車学校	1
		計	148
収益事業職員	薬剤師	北海道科学大学附属薬局	4
	事務員		3
			計
合 計			474



2024年・100周年

共に未来をつなぐ